

いものである。

横浜市総務局調査室編纂・発行「市民白書」・39

昭和十九年三月三十一日発行

変形版・二三三頁 非売品

(1964・12・1)

○五月三〇日(七)

日本新聞学会春季研究発表会

於日本大学

シンポジウム 山本明助教授「新聞と放送における社会的責

任」

住谷申一教授永眠

一九六四年度前期社会学科研究室彙報

I 社会学会公開講演会

○第一九回 五月二八日(木) 午後二時半—四時 於至誠館

二番教室

京都家庭裁判所主任調査官 荒川忠三氏 「少年非行の現状

と問題点」

○第二〇回 六月二九日(月) 午後二時半—四時 於弘風館

二二番教室

日本評論新社出版部長 清水英夫氏 「現代における言論の

自由の存在条件」

II 学会報告

○五月一七日(日)

関西社会学会第一五回大会

於名古屋大学

共同研究『西陣機業における出機制について』の報告

橋本真教授「織元・賃機関係の構造」、宮城宏専任講師「賃

機業者の生活と労働」、松本通晴助教授「賃機業者の地域社

会的関係」、青井厚教授「自営業者の意識」

本学科教授住谷申一氏(新聞学専攻)は、去る六月二十四日京都
市北白川の日本バプテスト病院に入院、七月一二日直腸癌のため
永眠された。享年五六歳。

氏は一九五〇年本学文学部専任講師として赴任し、一九五三年
助教、一九五七年教授になられた。

論文は「海外新聞と浄世夫彦」(『キリスト教と社会問題』みす
ず書房、一九六三年、所収)その他多数。

氏は一九三三年より新聞界に入られ、一九四三年満洲日報の整
理部長および論説委員副参事となり、その間数多くの論説・評論
を発表されているが、その後新聞人から学究生活に入られ、日本
新聞発達史をライフ・ワークとされていた。多くの資料を集めつ
つ諸論文を発表されてきたが、いよいよこれらの資料を整理し、
研究成果を大成されようとしておられたやさき突如として永眠
されたことは、まことに惜しまれる。ここに深く哀悼の意を表す
る。